

◎経営協議会の学外委員からの意見、指摘等に対し、法人運営の改善に活用した取組例

- (1) 経営協議会及びその他の機会に経営協議会学外委員からの意見については、その場で回答するほか、その内容等を別途取り纏め、関係する委員会、事務局担当課等にて検討することとしている。
- (2) 大学としての新たな取り組み等について、事前に経営協議会で説明を行い、経営協議会学外委員から意見を聴取し、今後の参考としている。
- (3) 検討し、改善した事項(又は改善する)については、経営協議会の場で報告等を行っている。
- (4) 具体的な取組例については下記のとおり。

開催回数	年月日	意見、指摘等の内容	対 応
第3回	24.1.16	東京サテライトキャンパスについて、鹿屋体育大学単独で運営していくのは、施設面や財政面において限度があると考えられるので、他大学と連携することで新たな展開が生まれるのではないかと。	筑波大学との連携協定の締結により、相互の教育研究の充実及び交流が今後推進されることや、平成25年度から東京サテライトキャンパスにこれまでのスポーツビジネス分野に加え、スポーツコーチング科学分野での社会人の受け入れを開始することにより、サテライトキャンパスを新たな拠点として位置づけていく予定である。
第3回	24.1.16	東京サテライトキャンパスについて、民間資金を活用した運営を検討してはどうか。	企業等に対して、製品、機器等の常設展示やセミナーの開催、共同研究などについて提案を行っている。 また、本学関係者が所属する各種研究会の会議やセミナー会場として有料で利用できるようにしている。
第3回	24.1.16	体育学以外の異なる専門領域を持つ大学院との連携を検討してはどうか。	4月26日に筑波大学と連携協定を締結したが、今後の取組として、体育学以外の領域についても協力していくことを視野に入れている。具体的内容については、未定であるが、まず体育・スポーツ領域での協力実績を積み上げた上で検討したい。
第4回	24.3.16	筑波大学との連携においては、鹿屋体育大学の海洋スポーツ等の特色を活かすなど自己主張し、イニシアティブをとることが重要である。まずは学内で議論をして将来のビジョンをだしていただきたい。	筑波大学とは、すでに、海洋スポーツセンターが共同研究として取り組んでおり、協定締結後は、海洋スポーツ実習や施設の相互利用が予定されている。 更に今後、本学の強みでもある海洋スポーツや水泳等でイニシアティブを発揮していくとともに、体育・スポーツ分野における教育研究拠点として、共同学位プログラムの構築に向けて取り組んでいく。 学内では、検討会議や学長懇談会等において意見交換を行い、その方向性を明確にしていく。